

木材でつながる福井と嘉義

～架け橋助成事業実績報告～

(株) マーベルコーポレーション 小澤 聖輔

1. プロジェクトへの応募のきっかけ

弊社は、2022年度より3年間の「日台産業協力架け橋プロジェクト助成事業」の採択をいただき、文字通り木材を通じた日台の「架け橋」的な事業を展開している、稀有で幸運な会社である。今回は、福井県の小さな企業の不思議なお話をさせていただく。

まずはこの「日台産業協力架け橋プロジェクト」へ、なぜ応募するに至ったのか、私の生まれ育った福井と関係する部分が多いため、そのあたりからお話ししたいと思う。

私は1962年、福井県福井市の原目町という県庁所在地でありながら、周りは田んぼばかりという田舎の長男坊、として生を受けた。両親は兼業農家として休みなく働き、私は乳母車の中に寝かせられ、長時間田んぼのわきに放置されていて、子供頃はよく日に焼けた健康優良児だった。当然、子供のころから田んぼ仕事を手伝わされていた。家の近くの脇道には、蓮如上人が腰かけたという言い伝えの石があるような、敬虔な浄土真宗の風土の中で高校生までを過ごした。芦原の吉崎坊は、蓮如上人の布教拠点として有名である。ところが私は、その封建的な田舎暮らしにうんざりしていた。なぜか、「いつか必ず海外へ羽ばたいて広い世界で仕事をするんだ」と心に決めていた。

そして、高校3年生になり、大学受験の時期がやってきた。福井の高校生は当時、ほとんど関西や中京の大学へと進学していた。私は両親には内緒で東京の大学2校にも願書を出願し、なぜか関西の大学は全部滑ったのに、東京の2校には合格してしまったのだ。1980年に上京し、当時バブル

期絶頂の頃で、福井の田舎暮らしとは180度違う、きらびやかな都会の雰囲気一気に魅了されていった。学生であったにも関わらず、大学2年の頃には麻雀荘の店長として店を任されており、稼いだお金で新宿、渋谷、六本木で遊んでいた。大学4年になって、東京に魅せられていた私はこの時も両親に内緒で、東京の会社へ勝手に就職してしまった。虎ノ門のダイヤモンド株式会社という、ヨーロッパからベルベットやシルクタフタ、レオナールのプリントなどの高級服地を反物で直接輸入し、日本全国の洋裁学校やオートクチュールのお店に卸していく輸入商社であった。商社の兼松の繊維部門の人が独立して創業し、付加価値の高い海外製品を、信頼と行動力で販路を広げていった会社で、当時バブル期という事もあり、かなり成功していた。ホテルニューオータニに全国の取引先を招待し、展示会を開催していた。この会社で貿易を学び、海外取引のダイナミックさも経験した。ところが、1990年福井の両親から「田舎の長男坊は家を継ぐのが当然、帰ってきなさい!」と強く言われ、福井に連れ戻された。

失意の中にあった私は、福井の三谷商事株式会社という、建材、エネルギー、ITの商社に入社した。そこでも、なんとか世界へ進出する方法はないかと日々考えていたのだが、外回りをしている時に、ある役所の方から「小澤さん、これから間伐材の時代が来るよ」と言われた。戦後の大造林時代に植栽された、杉、桧が40年以上育ってきて、間伐を行って健全な森林にしていく必要性の高まってきた時期だったのである。早速、社内ベンチャー制度に応募し、「環境的な高耐久木材の製造・販売事業」を提案したところ、運よく

その年に準優勝させていただき、1998年、社内ベンチャー事業として正式にのちの「マーベルウッド事業」をスタートすることができた。

そして、このマーベルウッド事業を、私の当初からの願望である「海外展開」へと進めていくにあたって、会社側と相談し、2011年、私が「株式会社マーベルコーポレーション」を設立し、独自で海外展開をしていくことで双方納得し、円満に新たに創業させてもらうことができた。ただし、国の防腐性能基準AQ1種の認定は、海外での展開においては必要不可欠の要件なのだが、この取得に2018年までかかってしまった。そのため、本格的な海外進出活動は、2019年からという事になり、そこからが第2の創業といえる。

2019年に「福井県産材販路拡大協議会」の一員として、台北南港にて「台北国際建築建材博覧会」にマーベルウッドを初めて台湾で展示し、その後セミナーも開催した。福井県内の木材企業6社が参加したセミナーでは、マーベルウッドの高耐久木材が最も高評価を得て、私としてはますます台湾への進出に情熱を傾けていった。ところがご承知のように、2020年からは本格的なコロナ禍の世の中に突入していき、福井の他の企業は半ばあきらめてしまった。あきらめきれない私は、単独で2020年にJETROのハンズオン支援に応募し、運よく採択された。台湾に詳しい専門家やコンシェルジュと相談していたところ、たまたま担当の専門家の方が、日本台湾交流協会で勤務されていた方で、「日台産業協力架け橋助成事業」というものがある、との情報を教えていただき、私は早速、東京の協会本部に電話した。というのは、過去の採択事業者や事業内容を観ていたら、企業というよりも、協会や組合団体がほとんどで、しかも木材のような第一次産業的な事業は一つもなかったからである。

協会へ電話した時に、対応していただいた方が鳴海上席副長で、大変親切に助成プロジェクトの説明をしてくれ、「脱炭素事業として、台湾との産業協力を進めていく、という面では当プロジェクトの趣旨に合致しているので、応募してみても」と力強い言葉をいただき応募する決心をすることができたのである。この部分は非常に重要で、も

し、違う反応を得ていたなら、私はこの時点であきらめていたわけで、協会の産業育成への熱い思いがあってこそのご縁だった、と今でも感謝している。

2. 3年間のプロジェクト実施

2022年「福井×台湾 木材イノベーションによる脱炭素産業創出プロジェクト」を、国立雲林科技大学と連携して、雲林科技大学構内で実行した。(写真1)

最初に、なぜ雲林科技大学と連携したのか、について説明する。2021年2月、世界中がコロナ禍真っ最中で、台湾進出を目指していた私は途方に暮れていた。その時ふと思いついたのが、人材の募集であった。こういう時期こそ、人材獲得のチャンスとばかりに、近くのハローワークに飛び込み相談してみた。その相談員さんが大変親切な方で、「東京にも支社があるのでしたら、東京でも募集してみましょう。」とアドバイスしてくれて、福井と東京のハローワークで募集をかけてくれた。すぐに、東京在住の台湾のひとからの応募があり、東京で面接させてもらった。すると驚くことに、台湾の雲林科技大学卒業後、福井大学へ交換留学生として、福井で3年間過ごしたという、福井に縁のある人だった。しかも建築学科が専門で、台湾嘉義市の木材製材業が実家だという。木材の技術イノベーションで、台湾進出を図ろうとしていた私にとって、これ以上ふさわしい人材はいない、と驚きながらすぐに入社してもらった。2021年4月から営業部長として台湾国内での事業開拓を



写真1

担ってもらい、彼の出身大学の雲林科技大学との連携の話が進んでいったのである。

次に、どういう連携をして、どのようなプロジェクトを行ったかについて説明する。まず、弊社が日本の杉材を45×90×2000の角材にして40本用意し、無色透明で環境的な保存処理を施した「マーベルウッド」として製作した。更に、台湾大学が、台湾の国産杉材に金属系の薬剤ACQを使って保存処理を施し、マーベルウッドと同じ寸法、数量を製作した。雲林科技大学は、全国の建築課のある高校・専門学校に対して、「木造で東屋を実作しましょう！」というコンテストのSNSでの告知を実施。応募のあった作品の図面とコンセプト内容を審査し、全国から8校を選抜、そのうち、4校に日本国産材マーベルウッドを、残り4校に台湾国産材ACQ処理された角材を提供し、提案図面の東屋を実作してもらった。10月に雲林科技大学の構内にて8校の東屋を設置し、専門の先生方を前に、各校がコンセプトの説明を行った。そして全員に特設ステージ周りに集合していただき、審査結果を発表し、金賞、銀賞、銅賞のそれぞれを授与して、その栄誉を称え、全員で大いに盛り上がったのだった。その後、高校や専門学校の生徒、先生、大学の生徒や先生方、商談会に参加いただいた木材企業の皆様を交えての日本の木材イノベーション「マーベルウッド」についてのセミナーを行った。セミナー講師には、台湾大学の莊先生、徳豊木業の李社長にご講演いただき、最後に弊社から「日本の木材と技術イノベーションのマーベルウッド」について説明し、終了。同時に商談会と展示会も大学構内で開催させていただき、日本の木材イノベーションを一気に多くの木材関連の先生方や研究者、学生、木材企業の皆さまにアピールすることができた、画期的なプロジェクトであったと思う。交流協会高雄事務所の古田次長にもご参加いただいた。この大会の盛り上がりをもって、その後、雲林科技大学より、弊社との「MOU契約」の締結のお話をいただき、この契約締結によりその後23年、24年と、このコンテストイベントを続けて開催する運びとなった。更に24年からは「インターンシップ生」として、雲林科技大学の3年生の学生2名を弊社で預かることとなり、7月～

9月の夏休み2か月間、ずっと弊社本社にて寝泊まりし、福井県の林業プログラムに参加したり、森林組合や製材会社、福井県の木材利用研究会への参加など、多くの体験を一緒にして交流を深めている。(写真2～4)

同様に2023年、2024年も雲林科技大学との東屋実作コンテストを軸とした商談会、展示会、セミナーの形でのプロジェクトを実行してきた。2023年には、共催相手を嘉義県政府として、嘉義県民生部の楊部長、経済発展部の江部長、農業部の許部長の協力の下、県政府の施設にて商談会やセミナーを開催した。セミナー講師として、福井県から、農林水産部の児玉部長に訪台いただき、福井県の林業、木材産業、台湾への期待について、



写真2



写真3



写真4

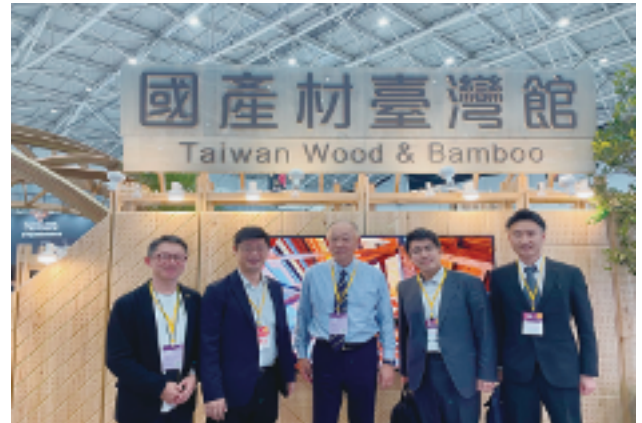


写真5

台湾側からは、台湾農林部林業及自然保護署嘉義分署の張分署長が台湾の林業、国産材の状況、日本の技術への期待等についてご講演くださった。大会後の懇親会には、嘉義県の江部長や台湾当局の張分署長、福井県の児玉部長、日本台湾交流協会高雄事務所の是枝次長、JETROの根橋専門家、張分署長の講演を聞きに来られた台湾当局の農林部の皆様、福井県の木材企業の皆様、大学の先生など多くの皆様が、産官学、日本と台湾の垣根を超えた、幅広い交流を図る機会となった。2024年には、今度は嘉義市との共催という運びになったのだが、これには訳があり、前年の嘉義県での弊社プロジェクトの盛り上がりや新聞・TVの報道で知った嘉義市が、「我こそが木都、嘉義市である」との気概を持って、弊社にアプローチしてきたわけである。ご存じのように、嘉義市は、日本統治時代に阿里山で伐採し、森林鉄道で運搬してきた木材の集積地であり、製材業等の木材産業の栄えた町であった。しかも嘉義市復興の看板政策として「木都復興3.0」を推進している最中だったのである。東屋実作コンテストには、嘉義市長、文化局長、自らが参加してくださり、嘉義市庁舎内に設置された東屋を、大勢のマスコミや関係者を引き連れて視察していただき、大会は大いに盛り上がった。また、今回からは高校生以外に、大学へも門戸を広げ、より一層ハイレベルなデザイン、木工技術が見られ、皆さん、楽しんでおられた。金賞をとられた成功大学の作品は、すでに近代アートと呼べるような芸術性の高さを感じさせた。セミナーでは、福井から、福井工大の丸山先生、南部木材の南部専務のお二方に訪台いただき、福



写真6

井の県産材を活用した施設や住宅の建築技術、日本独特の建築の考え方等、興味深いお話でのご講演をいただいた。嘉義県・嘉義市建築士公会の皆様や嘉義県文化局長、日本台湾交流協会高雄事務所の奥所長にご参加いただき、今までで一番の観客を集めたセミナーとなった。この年も多くのマスメディアに大きく取り上げられ、年々このプロジェクトの知名度がアップし、日本の木材技術、木材、ブランドへの信頼感も向上していると実感している。(写真5、6)

3. 3年間のプロジェクトで得た台湾ネットワーク

この3年間のプロジェクトを通して、台湾国内において、各分野でそれぞれの第一人者的な人物、企業、大学、公共機関、とのつながりができた。雲林科技大学の多くの先生方や生徒の皆様、中興大学の楊先生、嘉義大学の李先生、台湾大学の莊先生、宜蘭大学の郭先生、逢甲大学の多くの先生方、



写真7

嘉義県、嘉義市の皆様、徳豊木業様、福樟木業様、永昌木業様、方智様をはじめとした多くの木材企業の皆様、台北柏成設計様、台北境観設計様等の建築・デザイン設計事務所の皆様。このように各分野での人のネットワークを通じて、大型案件の話がいくつか来ているが、そのうち既に受注し2025年2月にオープンする案件についてお話しする。それは台中の逢甲大学の共善楼という国際ホールでの外装ルーバー材と、中庭のエクステリアベンチである。この建築は、日本の隈研吾建築事務所で設計を手掛けており、外装ルーバー材として、日本の桧材で耐久性のあるもの、しかも桧の色目や風合いを失わない木材を探している最中であった。この数年のプロジェクトでのマーベルウッドの評判を聞いていた逢甲大学の先生が、弊社に声をかけてくれたことがきっかけとなり、その後トントン拍子に話が進んで、外装全ての厚30mm×幅150mm×長さ3mの日本産桧マーベルウッドを約2000枚、中庭のエクステリアベンチ3基を受注し、約1500万円の売り上げを計上することができた。2019年に台湾進出を開始し、2021年までは台湾への輸出額は0円、2022年初めて台湾輸出に成功し600万円、2023年1200万円、2024年2500万円、と順調に輸出額が増加している。2022年のプロジェクトの開始時期と見事にリンクしていて、輸出事業に大きく影響していることがよくわかる。(写真7)

4. プロジェクトを礎にしたこれからの台湾との連携事業

この3年間のプロジェクト開催を通じて、多くの企業や大学との交流がスタートした。南投にあ

る台湾の木造建築の代表的な会社「徳豊木業」が、弊社プロジェクトのニュースを観て関心を示し、見積もり依頼、技術資料、サンプルの送付を経て、本格的な取引が開始された。2023年には社長以下3名が福井の弊社本社を訪問くださり、マーベルウッドの注入加工場、福井県産材の製材工場を視察していただいた。永平寺や東尋坊にもご案内し、夜は福井の新鮮な海鮮料理を囲んで親睦を図り、企業同士の信頼関係を築いていった。現在では単なるマーベルウッドの販売先ではなく、台湾での「マーベルウッド製造委託工場」として2025年4月より稼働すべく、双方で綿密な打ち合わせを重ねている。もう1社は嘉義の「福樟木業」で、同じく弊社プロジェクトで事業活動を知り、取引がスタートした嘉義県木材公会の会長企業。2024年3月には、嘉義県・嘉義市木材公会の企業経営者と家族18名を引き連れて、福井へ5日間、訪問していただいた。ちなみにこの旅程の宿泊や食事、訪問先はすべて弊社側で企画し、実行した。5日間、弊社側も3名の社員が総出で、バス1台をチャーターし、福井の嶺南から嶺北まで、福井県庁を皮切りに5社の福井県産材製材工場とマーベルウッド注入工場を視察いただいた。この時は「三方五湖レインボーライン」や「越前和紙パピルス館」での和紙作り体験、平泉寺では3月なのに珍しく雪が降って、台湾の人たちは大喜びしていた。この福樟木業さんとは2025年の後半に、福祥さんの工場改築に合わせて、「マーベルウッド注入工場」を新設する計画。この工場には乾燥機、集成材加工機械、倉庫も併設されており、完成すれば台湾での「マーベルウッド」の象徴的な基幹工場となる。注入機械設備は弊社側で投資し、福樟さんの工場敷地に建設させていただき、その後の注入・乾燥・荷造り・運搬作業は福祥さんに委託していく予定だ。拡販営業活動は、両者協力の元行っていく。(写真8、9)

さらに中興大学とは、2024年4月から「CNS認証」取得へ向けての防腐・防蟻試験を開始している。中興大学の楊先生は台湾での木材保存分野の第一人者の先生で、CNS認証の審査委員も務めておられる。2023年の弊社プロジェクトに参加してくださり、そのご縁で、マーベルウッドに興味

を持っていた先生との間で、試験契約が締結された。2025年の6月に試験結果が提示され、そのデータを基に、「CNS認証」取得へ向けた申請書類を作成し、審査を受けることとなる。宜蘭大学の郭先生とは、マーベルウッ드의注入後の薬剤成分の溶脱率試験・魚毒性試験を行い、環境性・安全性の面からデータを取得していく計画である。宜蘭大学とは、郭先生からの要望で「MOU契約」の締結を進めていく予定である。雲林科技大学とはすでに、2022年に「MOU契約」を締結しており、先生や生徒が何度も福井を訪れて、深い人的、文化的交流が進んでいる。2025年の夏休みは、雲林科技大学から2名、宜蘭大学からも2名、計4名の学生を弊社本社社屋に受入、一緒に2か月間ほど寝泊まりし、生活をともにしながら、福井の木材、建築、行政、林業、木育、歴史、文化を学んでいただく予定となっている。その他、逢甲大学からは、大学の建築ボランティア活動での連携も打診されている。また、台湾エクステリアの大手企業「方智」様、桃園の大手木材商社「益材木業」とは、{CNS認証}取得の暁には、販売代理店として「マーベルウッド」の台湾全土への販路拡大の協業を約束している。

5. 最後に

この3年間の「日台産業協力架け橋プロジェクト」を通して、我々は目に見える数字や実績だけ



写真9

でもわかりやすく、その効果を実感できている。ただ、本当に大きなものは、目に見えない、人の思い、信頼、情熱、感動をともに得られた経験であり、機会であったと思う。

大企業を飛び出し一人で起業しようとした時、多くの人に「一人でなにができるのか、会社に行ったら楽だよ」と言われた。ある支援機関に海外展開の支援を求めた時、「小さな会社での海外進出は10年早い、海外視察でもして遊びに行くつもりか」とバカにされた。コロナ禍に台湾進出を続行している時は、「福井の木材は日本でも売れないのに、台湾で売れるわけなどないわ」と罵倒された。悔しい思いもいくつもしてきた。ただ、私にはなぜか自信があった。「自分があきらめなければ、必ず成功する」と思っていた。理由は分からないのだが……。

そして、我々はその何倍もの幸運に恵まれ、多くの人たちから信じられないくらいの支援の風を受けている。その代表が日本台湾交流協会様であり、このご恩に報いるためには、台湾との架け橋になって交流を深めていき、お互いの産業の発展に寄与していくことに他ならない、と考えている。

2024年12月には、農林水産省の「輸出事業計画」に認定していただいた。木材の技術イノベーションで5年後には2億円を超える事業計画を目指している。昔、あれほど嫌いで福井を飛び出した人間が、今は大好きな福井の地から、「環境木材で世界を変える！」をモットーに、台湾、そして世界へと羽ばたこうとしている。この大きな挑戦への扉を開いていただいた日本台湾交流協会の皆様、本当にありがとうございました。



写真8